



外国文献紹介

経過観察中のデスモイド腫瘍の増悪と MRI の T2 強調像における信号強度との関連性について—後ろ向き調査によるコホート研究

Cassidy MR et al : Association of MRI T2 signal intensity with desmoid tumor progression during active observation : a retrospective cohort study. Ann Surg 271 : 748-755, 2020

筆者らは、経過観察中に MRI 検査が実施されていたデスモイド腫瘍の患者 37 例について、後ろ向き調査を行い、画像所見や臨床所見と無増悪生存率（PFS）との関連性について検討した。追跡開始時点の MRI の T2 強調像において、腫瘍の高信号を示す部分の腫瘍全体に対する割合（T2 スコア）を求めて指標の一つとした。その結果、T2 スコアが 90% 以上の群の 1 年後の PFS が 55% であるのに対し、90% 未満の群の PFS は 94% であった。そして、T2 スコアは、早期に治療すべき患者と経過観察でよい患者を見極めるのに役立つ可能性があるとして述べている。

瀬戸一彦